

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1273500155		
法人名	社会福祉法人 はつらつの里		
事業所名	グループホーム はつらつ宮の原		
所在地	千葉県八街市山田台宮の原966番地ノ2		
自己評価作成日	2021年11月4日	評価結果市町村受理日	2021年12月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ACOPA
所在地	我孫子市本町3-4-17
訪問調査日	2021年11月10日(文書評価)

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、ゆとりある時間と住居の中で、個性を尊重した家庭的な環境の下で、入居者様お一人お一人が楽しく生き甲斐のある生活を実現できるように支援いたします。温もり・家庭・馴染み・笑顔・怒の心を理念に掲げ全職員で共有しより良いサービスを実践できるよう努めます。今年度は新型コロナウイルス感染防止の為、日常的な外出が出来ないため、レクリエーションの充実を図り職員と入居者様一緒に季節の飾りや、職員の考えたゲーム等を行い、楽しんでいただきたいと思います。ご家族様と利用者様、そして当施設とのより深いつながりや信頼関係を保てるように、日々の近況や健康状態等を細やかに連絡していきます。家庭生活で行っていた日々の食事作りや掃除等を毎日の生活日課に取り入れ、活き活きとした張りのある生活作りに努めます。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1ユニットのグループホームである当事業所は、ほど近い場所にある法人系列のリハビリホーム・軽費老人ホーム等と連携した運営と取り組みが特徴である。新年会や納涼祭・敬老会の合同開催や花見などの外出は利用者の楽しみであったが、コロナ禍において一切の行事の開催を中止し、家族との面会も制限している。利用者の生きがいや張り合いがなくなるように、ストレス発散も兼ね、周辺の散歩や体操サークルなどの日々のレクリエーションに工夫をするとともに、家族には近況や健康状態等を細やかに連絡する等、信頼関係づくりに努めている。周辺はまだ自然が残る場所にあり、民家を改装した和風建築で施設長と職員で穏やかな雰囲気の事業所を作りきめ細かい支援に取り組んでいる。コロナ禍のために、自己評価・諸資料、家族アンケートを基に実施した文書評価である。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します (○ 印を記入ください)

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念や毎年度の目標をホーム内に掲げ、全職員で実践及び評価を行っている。	理念や目標の掲示をしている。朝夕の申し送り時や、毎月開催の職員会議の場で、話し合い、理念の共有による支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	従来は日常的に交流を図っていたが、新型コロナウイルス感染防止のため、今年度は実施しておりません。	自治会に加入しており、コロナ禍以前は地域のお祭りに参加、ボランティアの来所もあったが、コロナ禍以降は外部との接触を避けている。事業所周辺散歩時の挨拶程度である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	従来は認知症カフェ等を行い地域の方への支援を行ってきたが、新型コロナウイルス感染防止のため、今年度は実施しておりません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ前まで年2回実施していたが、新型コロナウイルス感染防止のため今年度は実施していません。八街市より許可を受けていません。今年度は開催できなかったため、施設行事等をお便りにして郵送しています。	市の了解も得て、会議開催は中止している。その代り、日々の事業所の諸活動(入居者情報・行事等)を、運営推進会議についてのご案内として取り纏め運営推進委員へ送付して内容確認と意見を頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	自己評価の結果、入居状況等について相談等、市担当者と面談している。また町の研修等のとき、施設の運営について話したりしている。	市の窓口は高齢者福祉課であるが、市主催の会議・研修も開催されず。その為に、相談事項があれば必要な都度、高齢者福祉課と相談して、その指示・判断に従っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2か月に1度研修を実施している。今年度は外部での研修にも参加し、参加者を講師として内部研修を実施し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	施設内研修を毎月計画しており、認知症及び認知症ケアに関する研修も6回開催し、全職員に周知している。身体拘束廃止適正化委員会も同時に開催している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2か月に1度、研修会を開催し全職員が理解し、行動制限をしないケアに取り組んでいる。法人主催の研修会にも参加し取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を実施し、理解に努めている。権利擁護についての簡単な試験を実施し、活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前にご家族と十分に話し合い、不安や疑問について十分な説明を行っている。現在は来所が難しいため電話での対応も随時実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年3回の第三者委員の他、ご意見箱を設置し、運営に生かせるようにしている。	家族の面会を制限しており、来訪が少ないので、顔写真入りの宮の原お便りや電話で細かく連絡を取り要望・意見を伺い、職員で共有している。アンケートでも「家族によく連絡をくれる、細かく対応して頂き助かる」等のコメントが寄せられている。	今回の回答者は3名であった。要望や意見を伺える機会であるので家族アンケートの回収率の改善に取り組んで頂きたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各部会、職員会議やミーティングで意見を述べる機会があるとともに個別面談も定期的に行い、意見を反映させている。	人事考課の際の個人面談や会議の場で職員の意見を聞いている。積極的な意見は、事業所の運営に活かし、改善に結びついている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々に業務評価を定期的に行っている。各自が向上心を持って働けるように環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個別にケアのトレーニングを実施。資格取得に向けて勉強会を実施し、研修の参加を促しシフトの調整し機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内部の各部会に参加し専門的知識や同業者との交流を図っている。また市内の同業者施設を見学させていただき質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申請時本人やご家族と面談又は自宅や病院に訪問し、本人の不安や要望に耳を傾け信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前より面接やお電話にて、不安な点や要望等を細かく傾聴し、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談、インテーク時に要望や現状を把握した上でケアマネや関係者との連携をとりながら必要なサービスが受けられるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活環境や生活歴を尊重し、「出来ることが出来る生活」を目標とし、協力できる関係作りに務めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来ていただけるよう電話や手紙で近況を報告し、その時のご本人様の状況を説明し、一緒に考えていただくようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のお祭りやイベントなど昔馴染みの場所や行事に出掛け、他者との関係継続に努めている。 親類や知人の方が訪問され、昔からの関係を保っている。	新型コロナ感染予防の為に面会や外出制限を実施しており、馴染みの関係は事業所内が中心となった。屋内で行えるレクリエーション、おやつを皆で作るなどで楽しみ、その様子を写真入りでご家族にご報告している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	作品作りやレクリエーション等、日常の活動を通して一緒に考え、行動することを通して、仲間として支えあいの気持ちを持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時の不安を少しでも軽減していただくよう、細やかにご説明している。退去されても電話をして、支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的なコミュニケーションで思いや希望を把握するよう努めている。 日常の会話やしぐさ、表情等から本人の意向を汲み取れるよう努力し、職員間で検討している。	はじめて利用開始される方の情報は、家族や前施設から聞き取る。利用者が屋内で行える行事を充実させ、コミュニケーションの機会を増やし、様子を見ながら会話の中で希望・意向を把握し、職員間で共有し、支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活環境、サービス利用経験などはほぼ把握できている。 本人の話を聞いたり、ご家族来所時に必要な情報を得、基本情報・ケア対応に反映している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は業務に入る前記録の確認をし、朝夕の申し送りでも日中・夜間の記録の確認を行っている。また、個々の身体状態に応じて個別的な支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の会話や行動を職員会議等で話し合い、ケアの仕方について多方面からみた介護計画を作成している。	利用者の様子を把握し、ヒヤリハット報告書などから課題を見つけ、ケアのあり方について毎月行う職員会議で検討している。話し合いから介護計画を作成し、職員間で共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入所者様の様子や言動に注意し、職員間で情報を共有、利用者様のケアについて職員同士で話し合い、どうすればよくなっていくか話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常のケアやご家族との連絡の中から要望や不安を聞き取った中から、ケアについて臨機応変に柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今出来る可能な範囲で、民生委員、ボランティア、知人、警察、消防、近隣住民の協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人及びご家族の意向を伺い確認している。また可能な限り職員が同行し、適切な医療を受けられるよう支援している。	入居時には協力病院の医師による定期的な診察、春、秋に健康診断を行っていることを説明している。専門医の受診がある時は、利用者や家族の希望を聴き、職員が同行するなど受診できるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段の生活の中で捉えた情報や気づきに関しては月2回の受診の際に主治医へ伝え、相談し、個々の利用者が適切な受診やケアを受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病院関係者やご家族様と連絡を密にとり、安心して治療ができるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は、ターミナルケアは実践していない為、当ホームでの対応が難しいと考えられた場合は、協力医療機関又は老健施設への入所等を薦めている。	ターミナルケアは実践していない。終末期を迎え事業所での対応が困難となった時は、家族の意向を踏まえ、協力医療機関・老健施設等の入所を案内している。入居時に家族へ説明し同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部・外部の研修を通して速やかに実践できるよう行っている。内部研修では職員同士で実地で研修を行い、不測の事態に備えている。マニュアルを整備し、毎回確認を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な消防訓練を年2回実施している。法人4施設での連絡網も整備し、応援体制も整っている。感染症や自然災害に対しての指針も整備し、職員研修も実施している。	年2回防災訓練を実施している。法人4施設での連絡網があり、応援体制も整っている。職員研修では非常災害対応マニュアル等を共有している。使用期限や保管場所も記入した非常用備品在庫表に基く管理をして備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳、プライバシーの確保については、内部研修、マニュアル等により職員全員が認識しており実践できている。	毎月の職員研修での話し合いの他に、内部研修を行い認知症の理解や虐待防止等職員全員で認識している。一人ひとりの利用者を理解し、尊厳やプライバシーに配慮しながら声掛けるよう対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常のケアの中から希望を聞き取れるよう支援している。ご自分で選ぶことができるように声掛けをし、決定していただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々その日の体調や気分等を見極め声かけなどで以降を確認しながら支援しているが、施設工事等が入った場合等、どうしても一人にしておけない場面等ではその限りではない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に本人の希望を聞きながら支援している。買い物に職員が同行し、傾聴しながら支援している。希望を尊重しながら季節に合わせた身だしなみができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒に食事作り・食器洗い等を行っている。旬の食材を使った食事や季節毎のおやつ作りを一緒に行っている。	利用者と一緒に食事を基本としているが、年々状態が低下し難しくなっている方もいる。配膳を行える方には出来る範囲で手伝ってもらっている。年間処遇計画で季節ごとの行事食を定め、旬の野菜を使った食事を皆で楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年2回の健康診断の結果や毎月の体重測定の結果を踏まえてバランスを考えた食事やおやつを提供している。また水分摂取量は毎日記録をとり、水分摂取を進めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別的な方法で食後口腔ケアを行っている。状態に応じ歯科医院への報告、相談、来診等連携を図っている。また、二ヶ月に一回定期的な口腔ケアを訪問歯科に頼んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、声かけによりトイレ誘導、夜間も声かけにより失敗がないよう、自尊心を傷つけないような声かけを行っている。なるべくおむつを使用しないよう心掛けている	排泄チェック表を記入して、一人ひとりの排泄パターンを把握している。失敗のないよう時間を見計らい、利用者の側に行き声掛け誘導して、トイレでの排泄を支援している。夜間帯も失敗を少なくする工夫をして、おむつを使用しない方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や食物繊維を考慮したおやつ作りを行っている。法人内の理学療法士に指導を受け、個別的に運動を実施し、自然な排便が出来るよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人個人のタイミングをみて入浴の声掛けを行い、楽しんでいただけるよう、入浴剤等でも変化をつけて楽しんでいただいている。	週4回の入浴日としているが、利用者のその日の体調を見て声掛け誘導している。シャワー浴や好みの入浴剤で楽しんでもらう等、状況に応じて工夫している。事業所では珍しい岩風呂であり温泉気分が味わえる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の習慣や健康状態に応じて柔軟に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用、用法、用量について全職員は理解している。 服薬は個々にあった方法で支援している。 症状の変化が見られた場合、主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴や家族環境等に応じて、個別ケアを行いその時々での気分転換を実施。施設内での役割を持っていただき、張りのある生活作りを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に地域のイベントや外食等に出掛けたり、花見やカラオケ大会、日帰り旅行に出掛けたり本人の希望を考慮した外出に努めたが、今年度は新型コロナウイルス感染防止のため実施していない。	新型コロナ感染予防の為に法人及び地域のイベント等が中止になっている。ホーム周辺を散歩することでストレスの発散を兼ね、外気浴を行っている。お花見等の少人数で短時間での外出なら月1回程度は行うことができ、喜んでいただけた。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の金銭管理能力に応じた支援を行っている。お金を所持していることで安心する方は、小額であるが所持しており、トラブルにならないように気配りしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたい方には、その都度かけていただいている。また、手紙やはがきを書ける方には書いて頂き、書けない方には支援をして書いて頂くようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールに季節の花を飾り、四季を通して季節を感じる事が出来る工夫をしている。 ホール内の壁に季節を感じる製作物や楽しかった思い出を飾っている。居間や居室は光を多く取り入れる工夫や壁の色等にも配慮している。	民家を改築したホームの為、落ち着ける環境となっている。居間は広々として日当たりも良く居心地がよい。利用者は日中の大半を過ごしている。ホーム内は生け花や飾り物を工夫して、季節を感じられるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いつでも自由に過ごして頂けるよう支援している。本人の気持ちを考慮し、施設内や庭で過ごすことが出来るよう椅子を設置し、「思い」を尊重した支援に務めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に協力していただき、馴染みの品物を持参していただいたり、ご家族の写真を飾るなどしている。	入居時には住み慣れた自宅との環境の変化で不穏にならないように、家族の協力を得て使い慣れた筆筒や服等を持ち込んでいる。落ち着いて過ごせるよう配置を考え、思い出の写真を飾る等を工夫して居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は入居者の動線を確保したうえで、わかりやすい表示をし、出来るだけ我が家での生活のような「出来る事が出来る」生活となるよう支援している。		